

教員活動状況報告書

提出日：令和 6 年 2 月 18 日

所 属：獣医 学部 動物応用科 学科

氏 名：戸張 靖子 職位：准教授

役 職：動物生命科学系主任、DEI 推進センター副センター長

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

（教育活動について何をやっているのか：役職担当・主要担当科目リスト（必修，選択）（受講者数）（学部向け，大学院向け）（學理データ活用）

教師として何に責任を負っているかを明確にし，自分が担当している授業科目に関して数行で説明する。（分量の目安：2～5 行（80 字～200 字）（科目表以外））

※分量（字数）はあくまで目安ですので，超えても構いません。内容を優先して下さい。（以下同じ）

「人を育てる」という仕事に責任と誇りを持ち、社会人、職業人として必要な知識や技術の習得を目指して麻布大学に入学された学生さんがそのモチベーションを落とさないような専門基礎的な教育科目の授業とそれに関連した実習を行う。また講義・実習内では学生さんが自分の成長を実感できるような働きかけを行う。具体的には、学部 1 年生に対しては、教養を深め、学部教育の基礎となる学力を授け、2 年次から 3 年次にかけては専門教育を受けるための基礎となる専門基礎の科目の知識を授ける。卒業研究においては、問題解決能力も育めるよう指導を行っている。また出る杭・ジェネプロにも参画、やる気のある 1, 2 年生や高校生の学習・研究意欲をより高める活動をおこなう。本年度は動物生命科学系主任も務め、学科運営にも貢献した。

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
動物生化学	動物応用科学科	必修	2	145 人
動物生化学実習	動物応用科学科	必修	2	145 人
生物学実験	動物応用科学科	必修	1	177 人
バイオインフォマティクス演習	動物応用科学科	選択	3	29 人
専門ゼミ	動物応用科学科	必修	3	7 人
科学の伝達	動物応用科学科	選択	4	7 人
遺伝生命科学実習	動物応用科学科	選択	3	55 人
卒業研究指導	動物応用科学科	必修	4	7 人
基礎ゼミ	動物応用科学科	必修	1	9 人×4
いのちと共生プログラム	明星高等学校	希望者	2	5 人

2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

1. で説明した教育面での責任を基にしながら自分の教育理念に基づいて自分の教育アプローチについてまとめる。（自分の教育アプローチの説明：なぜやっているのか，自らの信念，価値，目指すもの）（分量の目安：8～12行（320字～480字））

1. 麻布大学の学生さんには、インプットとアウトプットの多い、自分で考え判断できる人材となつてほしいと

2. 麻布大学での学問を通して自身のブランディングをしてほしい

動物生化学の講義では、毎回講義の内容で課題を出し、その回答を次の講義前までに麻布大学のラーニングシステムである学理に提出してもらっている。学生が提出した課題レポートをもとに私は解答案を作成し次回の授業の冒頭で課題の解説を行う。学生は自分が提出した課題レポートと解説を見比べることで、自身の知識の定着を確認することができる。これらは、学生が目的意識をもって学ぶ態度を身に着ける効果があると信じている。また、動物生化学と動物生化学実習の間につながりをもたせた内容設定を行っている。これは座学と実習の両面から学ぶことで、知識の定着を促すものである。また点として学ぶのではなく線や面で学ぶことを知るきっかけになることを意図している。

基礎ゼミや動物生化学実習などで提出するレポートについて、レポートはどのような構成でかかれるものなのか最初に関書方を見本を提示しやテンプレート作成する課題を出して、早い段階でレポートの書き方を身に着けてもらっている。発信力（アウトプット）の基礎である文章力を身に着けてもらうのが狙いである。レポート作成時の参考文献については、論文もしくは書籍の引用のみに限定しており、それは良質なインプットの機会を増やす目的で行っている。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

教育の目的と目標（これまでの教育経験においていつも行っていること。重要視していること。自分の教育を特徴づける方法）（分量の目安：15～24行（600字～960字））

学生の発信力を高めるという目的で、実習やゼミ・卒業研究指導の過程においては学生の発表する機会をつくる、または多く設定するという方針をとっている。ただし、動物応用科学科の学生は全体的に口頭によるプレゼンテーション力がとても高いが、文章力にはばらつきがあるように感じている。よって研究室に配属された学生に対しては、研究室ミーティングにおける口頭のみでの週間報告、文章による月間報告、プレゼンテーションソフトを用いた2カ月間の研究進捗報告を課して、個人の発信能力を把握するように努めている。

またゼミや研究室のプログレスレポートでは、教員を含めて一人一回必ず質問制度をつくることで、質問をすることに対する心理的なハードルを下げる効果を狙っている。さらに、研究室内の発表会だけでなく、古泉賞発表会（学科）、研究三昧（大学）、動物学会関東支部会などで発表することを促しており、学部生ながら動物学会関東支部会で発表する学生も輩出している。

インプットに関しては、研究室活動で毎年 2 冊程度教科書や学術書を輪読することになっている。(この活動で、分厚い本を読み切ったという達成感が学生の自信につながると聞いた。) また研究室活動にビジネスチャット(slack や stock)を取り入れているが、そこに学習に関わる論文、書籍、ネット記事等リンクを貼っておくと、学生が高確率でアクセスしてくれるので、推薦図書の間として利用している。

学生の教員に向かっての自主的なアウトプットは、こちらがフィードバックを適切に返さないと持続しないことが多いので、学生が発信してきたものすべてにおいて何らかのフィードバックを可能な限り早く行うようにしている。

アクティブラーニングについての取組

動物生化学での事前課題学習や講義内での演習

動物生化学実習でのグループディスカッションやその発表会

生物学実習での事前学習 (スライドや動画の視聴)

基礎ゼミでのスライド作成、スライド発表と学生同士の質疑応答

ICT の教育への活用

・授業資料を 1 週間前までに学理にアップロードし、講義前から学生に閲覧できるようにしている。

・MEET で行った授業を録画しそれを学理にアップロードすることで、欠席した学生や授業内容を復習したい学生がオンデマンドで利用できるようにした。

・ビジネスチャット slack や stock を使って、学生相互で進捗状況を把握することで学生教員感だけではなく、同学年間、先輩後輩間でのコミュニケーションが増加した。

4. 教育方法の改善の取組 (授業改善の活動) (分量の目安: 15~24 行 (600 字~960 字))

現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

(①から⑤まで個別に記載又は①から⑤までまとめて記載ください)

①教育 (授業, 実習) の創意工夫 (A)

今年度も、新型コロナウイルスに関する話題を随所に取り入れた。例えば、動物生化学では、生体分子を学ぶ際に、ウイルスを構成しているのはどんな物質とか、それは私たちが構成する細胞とはどう違うのか、どうして石鹸で手を洗うと感染予防になるのか等。

前期の専門ゼミでは、学生に輪読に適切な書籍を選定してもらい、その書籍の素晴らしい点を推薦者に 5 分程度プレゼンテーションしてもらって、最終的に投票によって輪読する書籍を学生が選定した。学生自ら読みたい本を図書館で探して、紹介するという行為、自分たちが選んだ書籍の内容を紹介しあうという行為は、大変だが有意義だと感じるらし

い。

②学生の理解度の把握 (A)

動物生化学やバイオインフォマティクスでは毎回提出してもらう課題レポートで理解度を把握した。また提出物をみながら、どこで学生がつまずいているのかを理解し、解答案をより詳しくしたり、不必要なところは削ったりした。研究室所属の学生に関しては、一週間に一度個別ミーティングを行い、研究、授業、生活面について不安を吐露してもらっている。

③学生の自学自習を促すための工夫 (A)

基礎ゼミでは、学生はテーマに沿ってレポートを作成する提出されたレポートにコメントをすることによって、そのコメントに対応する形でさらに調べ物をして、それを反映させたプレゼンテーションを行ってくれた。そのプレゼンテーションに対して、学生間で質疑応答する機会をつくった。学生間の質疑応答に答えられたまたは答えられなかった経験は、学生自身の自学自習が十分であったかどうかを反省する良い機会になったと考える。研究室に所属数学生については、週一の研究室全体ミーティングと個別ミーティングでアウトプットしてもらいそれに対して前進するようなコメントを対面でフィードバックする。また月間報告では書面で報告してもらいそれに関してビジネスチャットを使ってフィードバックしている。

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等) (A)

MEET、メール、ビジネスチャット、対面等学生の好きなツールで質問してもらった。全体的にメールでの質問が多かったが、バイオインフォマティクス演習に関しては、毎週授業時間後に研究室に来て、対面で質問しにくる固定の学生がいて、質問に回答することはその学生たちへの学習効果が非常に高いと感じた。

⑤双方向授業への工夫 (A)

ゼミや演習、実習などでは双方向というかむしろ学生さんメインで発信する授業内容を設定した。専門基礎の座学(履修者 140 名以上)の動物生化学の講義場合は、講義の最初に日々の日常について私が感じた疑問について最終的にその疑問が生体内物質の動態を明らかにすることで解明できるかどうかという視点の小話を導入することによって、その小話についての質問が講義の導入部に生まれ、それに付随する形で講義内容の質問が複数の学生さんからチャットで寄せられるようになった。匿名性を高めた質問アプリを使うと講義中に学生さんからの質問が増加すると聞いたので来年度に導入して、双方向への工夫をより行いたいと考えている。

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

⑥国家試験対策としてどのような取組をされましたか。（V 学科， M 学科の教員の方のみ記載してください。）

5. 学生授業評価（分量の目安： 4～7 行（160 字～280 字））

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

2022 年の前期の動物生化学の授業評価：

- ・資料が簡潔で見やすく、毎授業課題の解説があったおかげで、より理解を深めることができました。
 - ・質問にも丁寧にご回答いただき、授業に取り付きやすかったです。
 - ・メールで質問した際に、迅速に対応してくださりありがたかった。
 - ・質問などに詳しく答えていただき嬉しかったし、よりこの分野に興味を持つことができました。
 - ・今まで習ってきたことを踏まえつつ新しいことも含まれていて、とっつきにくい感じはなかったためある程度は理解できたと思った。
 - ・あまり生化学自体は得意ではないが、課題として自分で調べる機会が多かったことで少し興味を持つことが出来たと思う
 - ・他の講義(分子生物学や昨年度の有機化学など)で学んだことと関連付けながら、より深く理解し、学習することができました。ありがとうございました。
- という評価を頂き、質問には迅速かつ丁寧に対応することを徹底した。また自主学習では感じにくい、他の講義や実習との関連を感じられるように講義体型をさらに組みなおした。

② ①の結果はどうでしたか。

2023 年度の授業評価が届いてないので結果がわからない。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組めますか。

2023 年度の授業評価が届いていないので、未定

6. 学生の学修成果（分量の目安： 4～7 行（160 字～280 字））

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

（参考となる取組については、学内で共有させていただく予定です。）

動物生化学では、講義の内容の特に理解してもらいたいところを課題に出し、それを次の授業前までに回答を学理で提出してもらっている（その出来に対して評価はしない）。学

生から提出された解凍をもとに、次の授業の冒頭に課題の解説を行っている。また14回の講義内容を前半7回と後半7回に分けて、前半7回が終わった時点で内容を一度レポートにまとめてもらい、そのうえで後半7回を受講してもらうようにしている。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

例年、前期の授業評価から抜粋しているが、2023年度前期の授業評価が未達なのでわからない

7. 指導力向上のための取組（FD研究会参加状況）（分量の目安：1～2行（40字～80字））
企業調査（企業の人材ニーズ分析）に係るFD研修や我が国のコンピテンス基盤型医学教育のこれまでと未来にFD研究会に定期的に参加した。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

教育活動に関する今後の目標を記載してください。短期的な目標と長期的な目標を分けて記載してもかまいません。（分量の目安：3～6行（120字～240字））

22年度4月に准教授への昇進し、その年の4年生から大学院進学者が1名、23年度の4年生からは大学院進学者が3名現れた。24年度はその大学院生と一緒に教育研究することにより、麻布大学でしかできない研究を推進する。その結果、大学院生が国際学会や国際雑誌での発表などで学生のオリジナリティをアウトプットすることにつながると考える。

「ウズラを通して、生態、形態、動物福祉、文化、ヒトとの関係、家禽化（実験動物化、産業動物化を含む）を学ぶ」という内容を生物学実験で展開している。このような内容は他の動物科学系の大学でも行われたい内容で、レポートの中のフィードバックでも好意的であった。今後も麻布大学でしか学べないオリジナルな授業を展開したい。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

※資料については非公開扱いのものもありますので、資料名のみを記載してください。

参考

※ ティーチング・ポートフォリオにおける自己記述を裏付けるエビデンス例

（「実践ティーチング・ポートフォリオ スタータブック」（大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会 編）から引用）

（自ら作成するもの）

1. 授業に関するもの

シラバス，小テスト，宿題，レポート課題，試験問題，教材（配布資料，パワーポイント資料など）

2. 教育改善に関するもの

（教育に直接貢献する研究，FD プログラムなどへの参加記録，教育の工夫を示すもの（複数年のシラバス等），教育活動関連の補助金の獲得

（他者から提供されるもの）

1. 学生から

授業評価データ，授業に関するコメント（授業評価の自由記述やメールのやりとり等），卒業生から授業や教育についてのコメント

2. 同僚から

授業参観の講評，作成教材についての意見，同僚のサポート実績

3. 大学／学会等から

教育に関する表彰，教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類，カリキュラムやコースの設計などについての評価

（教育/学習の成果）

授業科目受講前と受講後の試験成績の変化，学生の小論文・報告書，学生のレポートの「優秀」「平均的」「平均以下」の例，特に優秀な学生についての記録，指導学生の学会発表などの成果，学生の進路選択への影響についての事実，学生のレポートの改善の軌跡